

児童生徒支援課 ～「誰一人取り残さない」教育の推進～

困り感をもつ児童生徒（不登校傾向、発達に課題のある子、日本語が不十分、日本の生活に適應できない子等）及び保護者への支援体制を充実させ、社会的自立へ向けたサポートをしていく。

◎変化が激しく、多様な価値観が溢れる時代に求められる人づくりと環境づくり - 共生・共創-

☆多様性の尊重：性格、考え方、文化、性別、能力などの違いを価値として受け止める
☆インクルーシブシステム：多様な子どもたちが共に学び、互いを理解し合える環境をつくる教育
☆多文化共生：異なる文化的背景を持つ人々が互いを尊重しながら、対等な立場でともに暮らしていく社会のあり方

1 多様なニーズに対応する支援

(1) 不登校児童・生徒への対応 ※R 7は3月末

不登校状況	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小学校	106	108	160	210	180	167
中学校	236	328	329	322	313	259
合計	342	436	489	532	493	426

- ・「つながり」「かかわり」を築く支援体制の構築：つながり・かかわりプランの推進
- ・校内教育支援センターの拡充：単独設置校6校、拠点・巡回方式6校
- ・校外教育支援センターでの新たな取組：第3の教育支援センターにおける実践の横展開

(2) 通級指導教室の拡充

通級児童生徒状況	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小学校言語	85	90	99	96	88	76
小学校LD等	59	64	76	91	112	132
中学校	25	33	34	37	34	46
合計	169	187	209	224	234	254

- ・新設：東部小（LD 1）
- ・巡回方式（向陽小、福田小、豊浜小、向陽中、竜洋中、豊岡中）
- ・小中学校から選出された専門調査員が100件専門調査を実施

(3) 外国人児童生徒増加への対応 ※R 7は3月末

状況	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
小学校	421	440	476	474	496	492
中学校	188	202	209	217	230	227
合計	526	609	642	691	726	719

※外国人相談員（ポルトガル語：6名、フィリピン語・英語：2名）

- ・支援体制の確立に向けた計画策定（外国人児童生徒アドバイザーの配置）

2 支援の充実を図るために

- ・居場所を確保するために、校内教育支援センターを全校に開設する。
- ・ニーズに応えるために、通級指導教室担当教員の育成を図る。（意図的配置、研修）
- ・臨床心理士による専門調査に特別支援教育コーディネーターが同行することで、専門性の向上を図る。
- ・適正な就学支援を行うために、こども部（こども若者家庭センター、こども未来課）等との連携をより充実させる。
- ・多様な言語の通訳を確保することで、児童生徒や保護者の困り感を聞き、支援の充実を図る。
（ベトナム：37人、中国：28人、スペイン：40人）
- ・スクール・ソーシャル・ワーカー（SSW）を増員したり、健康福祉部との連携を図ったりすることにより、多様な家庭環境への支援や学校の外部機関との連携を充実させる。